

地域支援だより

きらりNet



平成31年3月8日

第91号

秋田県立秋田きらり支援学校  
地域支援部

かがやきの丘から望む太平山も白い衣を脱ぎはじめ、春の足音がすぐそこまで聞こえてきました。  
今日は、本校の卒業式です。それぞれの道を見付け、進んでいく卒業生。晴れ渡る空の下、これからも生きがいのある豊かな生活を送っていく事を願っています。  
さて今回は、最近耳にすることが多くなってきた「在宅就業」について、ご紹介します。

## 「移動困難」→「通勤困難」→「就職困難」？ 在宅就業！

IT技術の飛躍的発達と高速通信網の整備は、職場環境や業務形態にも大きな変化をもたらしました。在宅勤務は、働く意欲も能力もありながら、障害により通勤が難しい人の可能性を広げます。

### こんな会社があります

#### 「クオールアシスト株式会社」

入力業務、イラストデザイン、  
Web制作 等

#### 「株式会社NTTデータだいち」

Web制作 等

#### 「スタッフサービス・ビジネスサポート」

インターネットの検索、入力作業等



一例です。

### 一日の流れ（「株式会社 リクルートオフィスサポート」の例）

- 9:30 テレビ電話会議システムにて全体朝会
- 10:00 クチコミ審査業務、求人情報審査業務、不動産情報審査業務 の審査業務  
(※不明点はグループチャットにて質問)
- 12:00 お昼休み  
(※午後の業務開始時はチャットにて報告)
- 13:00 審査業務
- 16:00 日報作成 ⇒ 共有ドライブにアップ
- 16:20 テレビ電話会議システムにて全体夕会
- 16:30 業務終了 (「株式会社 リクルートオフィスサポート HP」より)

一日6～7時間勤務の会社が  
ほとんどです。

### 不可欠なのは・・・

#### ①自己管理の力

自宅における医療措置や仕事の納期なども含めた自己管理ができないと、採用することも在宅就業も不可能です。

#### ②家族や支援機関による生活支援

本人の生活支援を継続的にできる体制が整っていることも大事なポイントになります。

どの会社も、パソコンを使用した仕事であることは間違いありません。働きたい気持ちとパソコンの基本的な知識技能、6時間働く体力が必要になるでしょう。

(文責：近江)

## 実践紹介⑧ 中学部 生活単元学習 (合わせた指導を主としたグループ)

中学部では、学部の目標である「目標をもって自ら学ぶ態度を育てる」「表現する力を育てる」「生徒同士の関わりを深める」を達成するために、1年生では「劇団きらり」、2年生では「マジックショー」、3年生では「きらり紹介し隊」と1年間学習する中心単元を設定して、生活単元学習を展開しました。今回は、3年生の「きらり紹介し隊～ボッチャをプロデュース～」の取組を紹介します。

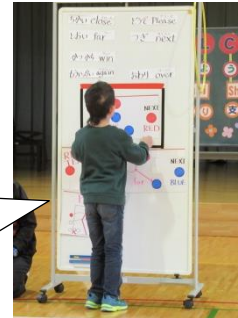
### 「きらり紹介し隊」とは？

自分たちが興味があること、経験のあることを、地域の方に分かりやすく紹介して、楽しんでもらうことを目的とした活動です。地域の高齢者施設や御所野学院中学校、国際教養大学と交流相手を変えながらパラリンピックの正式種目である「ボッチャ」のルール紹介やゲームの進行をしました。



ルール説明やゲームの進行などの話し合いで、友達の意見を採用したり、「こうすればいい」とアドバイスをしたりするようになってきました。

国際教養大学の方に説明するにあたり、日本語だけでは伝えきれないため、言葉だけでなくイラストを使用するとよいのではと生徒からアイデアが出ました。



交流相手が変わる度に、「交流相手に伝える、喜んでもらう」ためにはどうしたよいだろうと、課題意識をもって、友達と相談したり、自分の役割を考えて取り組んだりすることが、卒業後、社会で必要な力につながっていくと考えます。(文責：高橋)

## 教育専門監のコーナー

### 【思考力、判断力、表現力を育む言語活動の充実】

教科横断的な視点を持ち、各教科等のねらい、特性に即して言語活動を考えることで、児童生徒は「自分の知識や経験を基に考えればよい」と自信をもって考えられるようになっていきます。様々な経験や学習の中で、自分で考えたり、間違いを恐れずに意見を交わしたりと、児童生徒一人一人が主体的に考え、表現することを通して、共に学び合う力を備えていきます。

### 【言語活動を取り入れたプレゼンづくり】

- 伝える相手や目的を考え、伝えたい内容を整理する。
- 伝える相手と目的に照らし合わせ、適切な表現方法であるのかを分析する。
- 伝える相手や目的を考えながら伝えたい内容、視覚的媒体や聴覚的媒体の種類を選択する。
- 選択した事柄を基に発表資料を作成する。
- 伝える内容や表現方法を検証して深化する。
- 検証を基に内容や表現方法を再構成する。

### 【相手や目的を考えて表現する】

「何をどのように伝えると相手は楽しめるのか」、生徒一人一人が競技で体験した楽しさや魅力をまとめ、競技のルールと楽しさを紹介するプレゼンテーションをつくります。決められた時間の内で、分かりやすく、楽しく説明したり、紹介したりするために、仲間と文字言語やイラスト、写真、音楽の効果的な活用について話し合います。よりよいプレゼンテーションに求められるのは、交流相手と交流の目的に照らし、相手との話し合いの中で、自分の考えを整理・分析・選択・深化・再構成するための「思考力、判断力、表現力を育む言語活動」。中学部の生活単元学習の学習は、教科横断的な視点に立ち、生徒の主体的な学習を支える、一連の思考を伴った言語活動の充実を目指す取組といえます。

(文責：二階堂 悟)



◇教育相談・見学の希望があれば、いつでも御連絡ください。

教頭 伊藤 敏博 地域支援部主任 佐藤 忠浩

住所：〒010-1409 秋田市南ケ丘一丁目1番1号

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018 (889) 8573 FAX：018 (889) 8575

「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>